

## 補助事業成果報告書

法人番号	231001	法人名	愛知学院	学校名	愛知学院大学
内定番号	—	補助項目名	在外研究		
教育研究課題名	多様化する世界の農業経営の分析および支援の枠組みの検討—世界農業センサスの再考と地理的表示制度の活用を中心に—				

### 1、補助事業の取組状況（500字以内）

- ①国連食糧農業機関(FAO)の客員研究員として、FAOの世界農業ウォッチ(WAW)プログラムに参加し、日本の農業経営の現状と統計分析の枠組みについて情報提供を行った。さらに、科研費(代表：立命館大学新山陽子)を利用して日本の農業センサスの分析を行うとともに、年間投下労働力単位(AWU)を指標に用いた農業経営の類型のモデル化に取り組んだ。
- ②国連食糧農業機関(FAO)の客員研究員として、フィレンツェ大学の地理的表示研究チームとも協力しながら、イタリア国内の地理的表示認証産品(パルメザンチーズ、ソラナ豆、サンマルツァーノトマト、モルタデッラハム)の調査を実施した。これらの産品はスローフード協会のプレシディオ認証も取得している。地理的表示とプレシディオという二つの制度を比較することで、公的・民間認証が多様な農業経営の持続可能性に与える影響と課題を検討した。また、渡航前に日本で実施した地理的表示制度の調査結果も活用して、日本とEU(イタリア)の地理的表示制度の比較を行った。

### 2、補助事業の成果（500字以内）

- ①日本の農業経営の現状と統計分析の枠組みについて、WAWプロジェクトのリーフレットおよびホームページの作成・充実に貢献した。さらに、科研費の研究成果を2019年3月31日に日本農業経済学会大会(於東京大学)の個別報告で研究発表し、学会誌に投稿する予定である。
- ②研究成果は、2018年7月の国際社会学会世界大会(カナダ・トロント)で自身が主催した地理的表示に関する分科会での研究発表、同年9月の地域の伝統産品に関する国際シンポジウム(イタリア・トリノ)での研究発表、およびFAOでのセミナー主催と研究発表、同年10月の地域に関する日本ドイツ日本研究所主催の国際シンポジウム(日本・東京)での研究発表につながった。これらの成果は、2019年度以降に順次、論文、編著書等として発表する予定である。

所属	職名	氏名	
経済学部	准教授	関根 佳恵	